

ISSN 0389-4452

Bulletin
of
Junior
College
Library
Association

私立短期大学図書館協議会

会報

発行者：竹内紀吉
発行所：私立短期大学図書館協議会
〒194-0294 東京都町田市常盤町3758
桜美林大学・桜美林短期大学図書館内
電話 042-797-2661

2002. 2 No.50

✠ 平成13年度私立短期大学図書館全国研修会開催 ✠ テーマ『インターネットによる参考業務：可能性を探る』

日時：平成13年9月13日（木）～14日（金）
場所：安田女子短期大学
参加者：1日目 109名 2日目 108名
（講師、アドバイザー含む）
主催：私立短期大学図書館協議会
担当地区：同協議会 中国・四国地区協議会

2日目
演習「インターネット上の図書館を利用」
「実習また実習」
村本 俊雄氏（日外アソシエーツ㈱）
中澤 夏子氏（ ” ）

1日目
基調講演「ITと図書館」
前園 主計氏（青山学院女子短期大学名誉教授）
講演「図書館って何色？」
一色 彰氏（安田女子大学教授）
研修会
講演「インターネットでレファレンス」
村本 俊雄氏（日外アソシエーツ㈱）
演習「まずはインターネットにアクセス
…PCの基本操作とブラウザ操作…」
村本 俊雄氏（日外アソシエーツ㈱）
中澤 夏子氏（ ” ）



私立短期大学図書館協議会では平成11年度より会報、紀要、研修の3つの業務が2年間持ち回りとなり、研修業務については、昨年、一昨年は近畿地区協議会、平成13年度と平成14年度は中国・四国地区協議会が担当することとなった。近畿地区協議会で実施されたアンケートおよび準備委員会を継承して、全国研修会にはせる短期大学図書館職員の付託に答えるべく準備を進めた。また、普段アクセスする事が難しく、信頼性の高い有償サイトにアクセスして、参考業務における解答を得たり、無償サイトでも検索エンジン選択により、得られる結果が異なる事を参加者一人一人が体感した。この研修での知識を、自館での参考業務に利用できれば今回の研修目的を達成する事ができると考えた。

第1日目 竹内新会長は開会挨拶で、「我々が所属している短期大学図書館は急激な18歳人口の減少に伴って大変苦しい状況に立たされており、四大指向、専門学校への進路決定など、短大に身を置くものとしては、厳しさに厳しさを更に加える状況がずっと続いている。当然そのような影響をうけて各大学においては経営の合理化あるいは職員の抑制、組織の統縮小、予算の削減など合理化に向かったの苦渋の策を進展させている。

そのような中、我々の仕事が大学の教育研究の中核を担っていると力んでみても、短大図書館という形態の中での影響をどうしても受ける。小規模ながらも我々の所帯が学園経営のどのような面を担えるのか、研究機関と

して、どのような役割を果たさないといけないかという事を、このような厳しい状況だからこそ我々は我々自身に問い詰めていかなければならない。受身の図書館員であるのではなくて、攻めの図書館員へという事を肝に銘じておかなければならない。

今年度の研修テーマ「インターネットによる参考業務」では、我々が攻めの図書館員であるために与えられている諸条件の中で今、ITの問題をどのように駆使して図書館のサービスを高めて行くか、あるいは合理的効果を狙って行くかを真剣に自分の中に取り込んで行かなければならない。」と述べられました。

続く会場校挨拶では河野眞安田女子短期大学学長が、「今日の2・3日前9月11日にアメリカではとんでもないテロ事件が起きました。そういった事も含めまして今回の研修が記憶に残って頂ければ」とお話になった。

基調講演では、前園主計氏（前協議会会長）による「ITと図書館」の講演、午後からは、中島正明氏（安田女子大学教授）講演「図書館って何色？」の2講演を行った。研修会に入り、村本俊雄氏（日外アソシエーツ(株)）講演「インターネットでレファレンス」の後、演習「まずはインターネットにアクセス… PCの基本操作とブラウザ操作…」の基本演習を村本俊雄氏、中澤夏子氏で2つの教室にわかれて行った。

第2日目は、引き続き演習「インターネット上の図書館を利用」を行い、最後に実習の解題（模範解答）を村本俊雄氏に行って頂いた。なお、有償データベース、「ヨミダス文書館」読売新聞社、「ネットで百科for Library」日立システムアンドサービス、「MAGAZINEPULUS」BOOKPULUS」日外アソシエーツのデータベースを提供して頂き、検索エンジンは「Yahoo/Japan」ヤフー、「検索デスク」浅井勇夫を利用した実習であったが、一度に参加者100名余り有償データベースに同時にアクセスしたため、応答が非常に悪くなり参加者に大変迷惑を掛けてしまった。

研修会開催中も、安田女子短期大学図書館は開館し、特別展示として「室町江戸の往来物」が展示してあり、食後の時間を利用して多くの参加者に来館して頂いた。恒例になった懇親会も食事を取りながら同席の方々と意見交換をし、アトラクションとしてビンゴゲームに興じて頂き、始終和やかなひとときとなった。



「ITと図書館」

前園主計氏（青山学院女子短期大学名誉教授）

IT（インフォメーション・テクノロジー）その黒子としてのコンピュータと図書館の関わりを説明して頂く。

まず、図書館の機能として「資料は人類の知識を記録したもので、図書館はこれを求める人に伝えてゆく社会的機能を持つところ」であり、図書館の機能は変化していない、機能を遂行する為の道具が変わった、ITと言う道具になってきた、つまり変わったのは風景である、と述べられた。

また、インターネットは情報を扱っており、その意味では図書館の一部の機能が置き換わる。しかし、図書館で扱う資料とインターネットの情報は違う、それは信頼性の問題である。インターネット上の情報は、何らかのコントロールが働かないものもあり、情報提供の大部分は新しく珍しいもので、図書館で提供するものとはギャップがある。図書館には過去からの深い知識を高い次元で提供して行くことが求められる、と述べられた。



「図書館って何色？」

一色彩象徴からみた図書館の世界

中島正明氏（安田女子大学教授）

図書館イメージを色のイメージに置き換えて児童・生徒が抱く図書館イメージの輪郭を描写した講演であった。

色と図書館のイメージの総括として、白の図書館は、活動的、機能的イメージ。茶の図書館は、人間関係を重視した図書館、人間的な温もりのある図書館イメージ。緑の図書館は、精神的・内面的観念による図書館イメージ。青の図書館は、躍動する図書館、規範的、理想的な図書館イメージ。灰の図書館は、消極的・否定的なイメージ。このように利用者の図書館イメージを掴むのは難しいがこうした利用者側の図書館に対するイメージを研究することにより、的確に利用者ニーズを把握し学校図書館の活性化に寄与するのではないだろうかと思われた。



インターネットでレファレンス

村本俊雄氏（日外アソシエーツ）

「インターネットをレファレンス業務にどう役立てるか」というテーマで、インターネットによる検索の特徴や方法の基礎についてお話していただいた。その後、今後のレファレンス業務の活性化を図り、新たな図書館サービスとして利用者に評価してもらおうきっかけとなるよう、演習も担当していただいた。

全国研修会アンケート集計結果

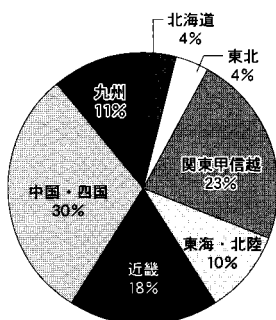
アンケート実施：平成13年9月14日（金）

回答件数：73名（参加人数99名：回答率97%

準備委員他24名を除く）

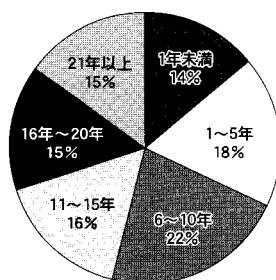
1. あなたの図書館はどの地区に属しますか。

北海道地区…………… 3人 東北地区…………… 3人
 関東甲信越地区……………17人
 東海・北陸地区…………… 7人 近畿地区……………13人
 中国・四国地区……………22人 九州地区…………… 8人



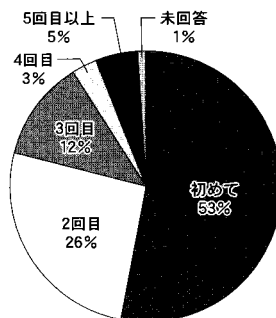
2. 図書館での経験年数は？

1年未満……………10人 1～5年……………13人
 6～10年……………16人 11～15年……………12人
 16～20年……………11人 21年以上……………11人



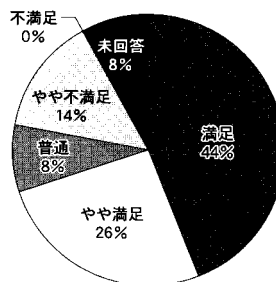
3. あなたの研修会参加回数は？

初めて……………38人 2回目……………19人
 3回目…………… 9人 4回目…………… 2人
 5回目以上…………… 4人 未回答…………… 1人



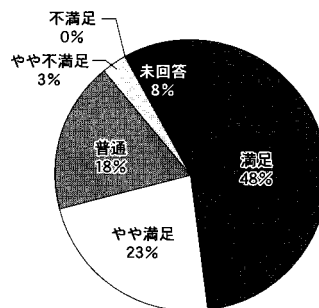
4. 今回の研修会テーマ「インターネットによる参考業務」について

満足……………32人 やや満足……………19人
 普通…………… 6人 やや不満足……………10人
 不満足…………… 0人 未回答…………… 6人



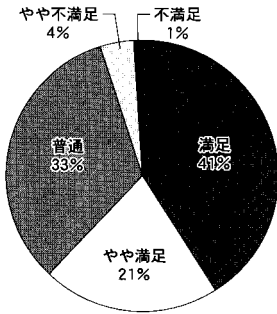
5. 基調講演について

満足……………35人 やや満足……………17人
 普通……………13人 やや不満足…………… 2人
 不満足…………… 0人 未回答…………… 6人



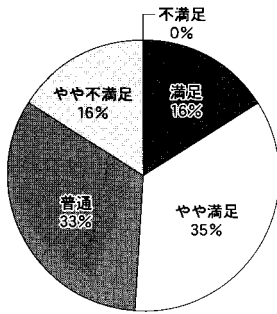
6. 講演について

満足……30人 やや満足……15人
 普通……24人 やや不満足…… 3人
 不満足…… 1人



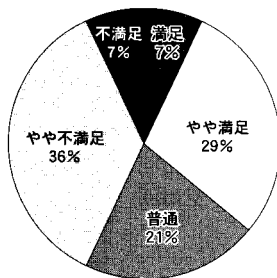
7. 1回目の演習について

満足……12人 やや満足……25人
 普通……24人 やや不満足……12人
 不満足…… 0人



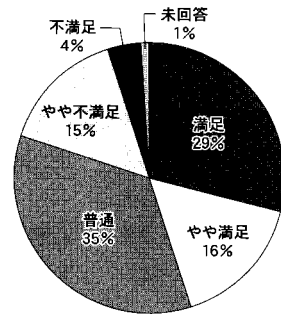
8. 2日目の演習について

満足…… 5人 やや満足……21人
 普通……15人 やや不満足……27人
 不満足…… 5人



9. パソコンの操作など、サポート態勢について

満足……21人 やや満足……12人
 普通……25人 やや不満足……11人
 不満足…… 3人 未回答…… 1人

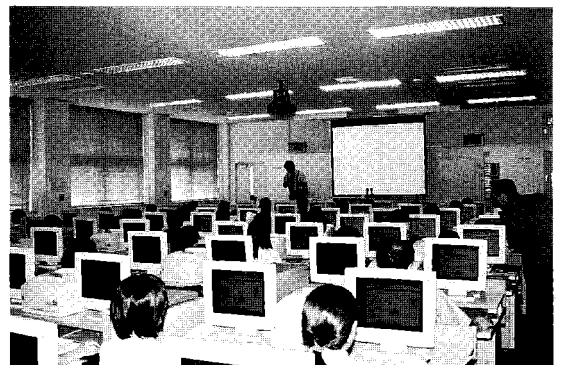


10. 研修会の運営方針等、具体的なことについてご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

11. 今後の研修会について、あなたのご要望は？

12. その他、何かあれば自由にお書きください。

研修会最後のアンケートに色々のご意見・ご感想を参加者の皆様から頂き、今後の研修会運営に大変参考になるのではないかとおもわれます。今回の研修会全体については、熱心で充実した研修会であり、会場校や準備委員に対するねぎらいのことばも多数ありました。また、情報交換会（懇親会）は大変楽しかったとの意見が多く、遠くから1人で参加された方も皆さんと一緒にアトラクション（ビンゴゲーム）に参加でき、友人が出来たと評価して頂きました。研修を地区持ち回りですることに関して、東京や大阪まで出られない地方の館にとって参加



しやすいとの意見や、研修を地区で開催するのは規模・人員共に難しいものがあり、協議会脱会のきっかけになる、などの意見もありました。2日目の演習では、有償サイトへの応答時間がかかり、予定どおり進まず多くの参加者に多大な迷惑をお掛けしました。事前に準備委員で同時アクセス20台程度の検証テストはしていたのですが想定できませんでした。今後このような演習には工夫が必要になるのでは、とのご意見もありました。今後の研修会では、情報ありきのデータベースを検索する研修会から、情報発信の為のホームページ作成などを取り上げて欲しいとの要望が多く寄せられました。持ち回りによる研修会のテーマは平成11・12年度近畿地区で「参考業務とインターネット」、今回は「インターネットによる参考業務」になり、キーワードはインターネットで、時代に即したテーマでしたが、竹内会長の開会挨拶にもありましたように、攻めの短期大学図書館にする為にも、インターネットを利用した情報発信の為のホームページ作成の研修も重要になって来ると思われます。

◆◆◆《平成14年度全国研修会のご案内》◆◆◆

平成14年度全国研修会は、山口県徳山市にある徳山女子短期大学にて、平成14年9月12日（木）～13日（金）に開催いたします。テーマは「インターネットによるレファレンス」です。

徳山市は、瀬戸内海に面した人口約10万人のおだやかな町です。山陽新幹線で広島からは38分、小倉からは58分で、新幹線ホームからは徳山港が見えます。

大学は、徳山駅前よりバスで約20分のところにあり、短大校舎からは、与謝野鉄幹が『彼のあたり二十の前の我を知る蛇島仙島黒髪の島』と詠んだ、徳山湾が一望できます。

全国のみなさま、是非、この研修会にご参加ください。問合せは、徳山女子短期大学（徳山大学）図書館まで。

徳山女子短期大学図書館

〒745-8566 山口県徳山市久米栗ヶ迫843-4-2

TEL0834-28-5394 FAX0834-28-8977

<http://www.tokuyama-u.ac.jp>

＝ 研修会に参加して

足利短期大学附属図書館 永瀬美佐子

昨年に引き続き二度目の参加となりました。『インターネットによる参考業務』というテーマは、当館のようにほとんど何にもない小規模図書館には、ありがたい内容です。

初日は、青山学院女子短期大学名誉教授前園主計先生による基調講演『ITと図書館』と題して、IT化の進む図書館の現状とこれからの図書館員のあり方について、午後からは、安田女子大学教授中島正明先生による講演『図書館って 何色?』と題して、図書館という言葉から連想される色によって図書館のイメージが分かるというユニークな視点からの講演がありました。

前園先生の講演では、ITが図書館に大きな影響を与え、業務も変化しているが書誌情報の分かる目録担当者はいなければならない、との言葉に深く頷き、中島先生の講演では、“私の図書館は何色かな？”と問いを巡らせました。

さて、いよいよ本題の研修です。まず、講師の日外アソシエーツ(株)村本俊雄氏の『インターネットでレファレンス』の講演があり、その後手始めにオススメの検索で一日目の研修は終了です。

二日目は、朝からグループ別に別れて各データベースを使用しての演習問題に取り組みました。使用したデータベースは、ヨミダス文書館・MAGAZINEPULUS・BOOKPULUS・ネットで百科・インターネット検索エンジンでした。

ところが、百名あまりが一斉にアクセスしたため、接続状況が著しく悪くなり、午後からは二人一組での検索演習となりました。そのため、最後の演習解題ができないうまま終わったのは少し残念でした。

データベースをいろいろ触っているとあっという間に時間がたってしまうという感じでした。職場に戻った今、長時間データベースを検索する余裕はありませんが、少しでも今回の研修の成果を生かせたらと思っています。

二日間楽しく有意義な研修をすることができました。取りまとめて下さったスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

テーマが「参考業務とインターネット」に変わってからは初めての参加でした。以前の「参考業務と書誌」というテーマの時には参加したことがありましたが、その時は「この図書館はこんな資料を持っているのか!」と、参考になったこともありました。

今回の研修会でも、参考になることや学ぶことが沢山ありました。前園主計氏の基調講演については、Web資料と著作権法に絡んだ話になるかと思っていたのですが、よい意味での期待外れとも言うべきで、電算機の歴史と図書館の関わりについてのものでした。このようなIT関連での歴史や工学的なお話は滅多に聞く機会がないため、大変よかったです。また、中島正明氏の講演では、イメージと色という、今までに思いもよらなかった図書館像についての研究であり、発想の転換という刺激を受けたように思います。

本学図書館では日外Webをすでに利用しています。しかし、データベースを作成している側からの、検索のコツのようなものが聞けたという点で、このような研修会は意味あるものだと思います。

また、新聞記事データベースでは、読売新聞縮刷版CD-ROMを利用しており、今回のヨミダス文書館との違いなどが実感できました。オンライン版は即時性やリンク機能など、便利な面もありますが、CD-ROM版では紙面そのものがイメージとして収録されているため、図・写真・広告までも記録されています。やはり利用目的よっての使い分けが必要と感じました。

図書館としては、村本俊雄氏が話していたように、固定費で使えるオンラインデータベースが少ないことが悩みの種です。従量制では予算化しにくく、利用が難しいからです。

今回の研修会について欲を言えば、図書館がレファレンスでも利用できる有用な無料のWebサイト紹介も、もっと欲しかったところです。

本学は、平成14年度より四年制大学を開校するために認可申請中です（この会報が発行される頃には認可されていると思う）。これにともない、短期大学は閉学となります。今後も図書館や図書館員としてのお付き合いは続くと思いますが、協議会会員としての参加はこれが最後になります。ありがとうございました。

司書のひよっこの私にとって、レファレンスは最大の目標であり、関心事である。今回の研修会の案内を見たときからぜひ参加したいと思っていた。

前園氏の基調講演では、ITが騒がれるずっと以前に「コンピュータのわかる人が図書館員になりなさい。」と前園氏に勧めた方がおられたそうだが、その人の先見の明が印象に残った。

中島氏の講演では、図書館を意識させるために“色”を使うという試みが興味深かった。

日外アソシエーツの村本氏の講習であるが、受けるまでは司書でない人がプロの司書にレファレンスを講義するなど、とんでもないと思っていたが、違うからこそ別の視点からアプローチできるのだとわかった。例えば、司書は普通、レファレンス・インタビューを行いながら、質問者が求めているものを検索前にできるだけ明確に把握しようとするのだが、村本氏は別の方法を紹介された。質問者も自分の求めるものが何か表現できないことの方が多いので、まず質問者に何らかの情報を出し、それに対するレスポンスにより、検索の的を絞っていく方法もあるのだそう。このことはとても印象に残った。

研修中にトラブルも起こった。120人が同時にアクセスしたので検索がうまくいかなかった。しかし具合が悪いとわかった時点で1人1台使用していたコンピュータを2人1組にするなど素早い対応がなされた。起こったことが問題なのではなく、それにどう対処するかが大事であると思った。

今まで参加した研修会では、参加した人と知り合う機会があまりなかったが、今回は一緒に実習したり、懇親会があったりして他の方々と交流することができ、たいへん貴重な経験であった。

また、会を運営する方法に学ぶことが多かった。駅から学校まで、さらに校内にも案内の人が立っていたり、お茶やおやつを用意、懇親会のゲームまで、すみずみまで行き届いたもてなしに、幹事校の心いきが感じられた。

研修会に参加するのは、研修から得るもののほかに、意見交換をして刺激ややる気を得たり、人的ネットワークを広げたり、会の運営のしかたを学んだり、多くの得るものがある。これこそインターネットでは得る事のできない“生の体験”のよさであると思う。この経験を今度は自分が会を開催するときに活かしたいと思う。



事務局報告

〈会 勢〉平成13年12月1日現在

北海道	16
東 北	20
関東甲信越	99
東海・北陸	42
近 畿	63
中国・四国	27
九 州	33
計	300 館

〈退会館〉

京都外国語短期大学図書館（近畿地区）
 梅花女子大学・梅花短期大学図書館（近畿地区）

〈会 議〉

平成13年度業務担当者連絡会議

開催日：平成13年12月6日（木）～7日（金）

場 所：東京ガーデンパレス

出席者：竹内紀吉 会長

（千葉経済大学総合図書館館長）

石川 亮 本部事務局

（桜美林大学・短期大学図書館）

大田邦宏 本部会計

（共立女子大学図書館）

我孫子晴美 会報担当・平成13、14年度

（札幌大谷短期大学図書館）

岡本 昭 研修担当・平成13年度

（安田女子大学・短期大学図書館）

石井義基 研修担当・平成14年度

（徳山大学・徳山女子短期大学図書館）

長谷部秀夫 紀要担当・平成13、14年度

（大阪電気通信大学図書館）

佐藤智子 紀要担当・平成13、14年度

（大阪明浄女子短期大学図書館）

陪 席：袴田次雄 （桜美林大学・短期大学図書館）

渡辺 恵 （ ” ” ）

佐々木真理子 （共立女子大学図書館）

蔵田千美子

（徳山大学・徳山女子短期大学図書館）

議 事：1. 会長挨拶

2. 出席者自己紹介

3. 本部活動経過報告

4. 協議事項

①会報について

②紀要について

③全国研修会について

5. 各館・各地区の情報交換

〈今後の予定〉

1. 平成14年度総会

開催予定日：平成14年5月22日、23日

会 場 予 定：総 会 第二丸善ビル
 理事会 日本図書館協会

2. 平成14年度全国研修会

開催予定日：平成14年9月12日、13日

会 場 予 定：徳山女子短期大学

〈本部役員会記録〉

平成13年6月～11月 計6回

この会議の多くは関東甲信越地区幹事会と同日開催

第1回 平成13年6月23日

場所：共立女子大学図書館

第2回 平成13年7月27日

場所：共立女子大学図書館

第3回 平成13年9月7日

場所：浦安市立図書館

第4回 平成13年9月28日

場所：桜美林大学新宿キャンパス

第5回 平成13年10月12日

場所：共立女子大学図書館

参加：本部役員関係者のみ6人

第6回 平成13年11月28日

場所：浦安市立図書館

各回の関係議題

①業務担当者連絡会議

②会報・紀要・研修について

③平成14年総会

④平成14年研修会

〈出 張〉

日時：平成13年9月13・14日

場所：安田女子短期大学

竹内会長、大田会計担当、渡辺庶務担当、我孫子会報担当が全国研修会に出席



地区活動報告

〈北海道地区〉

1. 平成13年度職員研修会

期 日：平成13年 8月24日（金）
場 所：札幌大谷短期大学（午前）
北海道大学附属図書館北分館（午後）

出席者：8館13名

内 容：午前の部 10：30～12：00

・講演「ゴッホと私の出会い」
講師 小林英樹氏（北海学園大学教授）

午後の部 13：30～16：00

・北海道大学附属図書館北分館見学
・「図書館と著作権」をテーマとした研修会
講師 宇野弘純氏
（北海道大学附属図書館北分館事務主任）

2. 平成13年度研究部会

期 日：平成13年 9月14日（金）
場 所：北海道武蔵女子短期大学講義室
テーマ：利用者サービスの視点
①事例報告 17：30～18：30
大井愛子氏（北星学園女子短大図書館）
渡辺泰代氏（釧路短大図書館）
棚橋 望氏（北海道武蔵女子短大図書館）

出席者：6館7名

②公開講義 19：00～21：00

「図書館職員の専門性と図書館利用教育
～図書館利用教育を実践していくことは
図書館員の自立につながるのか」

講師 毛利和弘氏
（JLA利用教育委員会委員長・亜細亜大学図書館）

出席者：7館9名（会員館）、会員館以外 34名

〈東北地区〉

平成13年度 東北地区協議会総会・研修会

日 時：平成13年 9月20日（木）
場 所：青森明の星短期大学（総会・研修会）
出席者：7館11名

1. 総 会

議 題：①平成12年度活動報告
②平成12年度決算報告・監査報告
③平成13年度事業計画
④平成13年度予算

⑤平成13年度全国理事会・総会報告

⑥脱会館・名称変更館について

⑦次期担当館について

2. 研修会「情報とデータベース」

講 師：藤井雅章氏
（青森明の星短期大学教授）

〈関東甲信越地区〉

1. 会 勢（平成13年12月10日現在）99館

2. 総 会

日 時：平成13年 5月24日（木）
場 所：丸善第2ビル
報 告：平成12年度活動・決算報告
議 事：①幹事選出
②平成13年度活動方針
③平成13年度予算

3. 幹事会

○平成13年度 第1回
日 時：平成13年 6月22日（金）
場 所：共立女子大学図書館（神田一ツ橋キャンパス）
報 告：会勢
議 事：①年間スケジュールについて
②会報第31号について
③関東甲信越地区研修会について

○平成13年度 第2回
日 時：平成13年 7月27日（金）
場 所：共立女子大学図書館（神田一ツ橋キャンパス）
報 告：加盟館名簿の準備について
議 事：①会報第31号について
②関東甲信越地区研修会について

○平成13年度 第3回
日 時：平成13年 9月28日（金）
場 所：桜美林大学。短期大学新宿キャンパス
報 告：①全国研修会出張報告
②加盟館名簿の発送
③非加盟館への入会勧誘について
④「短期大学図書館研究」第22号の掲載原稿
について

議 事：関東甲信越地区研修会について

○平成13年度 第4回

日 時：平成13年11月28日（水）
場 所：浦安市立中央図書館
報 告：業務担当者連絡会議について

議 事：①平成14年度総会について
②会報第32号の発行について

4. 会報第31号の発行

平成13年9月20日刊

5. 図書館・館員名簿（平成13年5月調査）の発行

平成13年9月10日刊

6. 研修会の開催

日 時：平成13年11月28日（水）

場 所：浦安市立中央図書館

テーマ：図書館のデザイン計画

講 師：押樋 良樹氏

参加者：28名 他地区より1名の参加あり

7. その他

①入会の勧誘

非加盟館76館に対して「会報第31号」、「研修会のご案内」を送付して、入会を勧誘した。

②図書館・館員名簿の発送

他地区理事館に、「平成13年度図書館・館員名簿」を送付した。

③「平成13年度第2回近畿地区研修会のご案内」配布

平成13年9月6日（木）に開催の標記研修会のお知らせを加盟館へ配布した。

<東海・北陸地区>

1. 平成13年度第3回幹事会

日 時：平成13年6月29日（金）13：00～16：00

場 所：愛知みずほ大学短期大学部

出席者：9館 12名

議 題：①全国理事会、全国総会の報告について

②平成13年度総大会の反省について

③平成13年度研修会の実施要綱について

④「会報」No.33について

⑤その他

・北陸部会の活動廃止について

2. 平成13年度研修会

日 時：平成13年10月25日（木）16：30～19：40

場 所：岐阜県図書館 サンピア岐阜

出席者：・東海・北陸地区加盟館 17館 25名

・加盟館以外 14名

・招待者（全国図書館大会短大分散会
事例報告者） 6名

計 45名

テーマ：「21世紀を迎えた短大図書館の課題と取り

組み」

～減量経営環境下、元気の出る図書館活動～

内 容：①講演「大学・短大図書館の今後を考える」
～アウトソーシング、コンソーシアムを
見据えて～

福留茂芳氏（丸善株式会社）

②招待者を囲んでの情報交換会

3. 平成13年度第4回幹事会

日 時：平成13年12月4日（火）11：45～16：00

場 所：愛知みずほ大学短期大学部

出席者：9館 13名

議 題：①平成13年度研修会の反省について

②「会報」No.33の編集について

③平成14年度総大会と研修会について

④平成14年度幹事校について

⑤その他

<近畿地区>

1. 幹事会

平成13年度 第1回

日 時：平成13年6月6日（水）13：00～17：30

場 所：大阪芸術大学短期大学部伊丹図書館

出席者：3館 3名

平成13年度 第2回

日 時：平成13年7月12日（木）13：00～18：00

場 所：京都精華大学情報館

出席者：7館 7名

平成13年度 第3回

日 時：平成13年9月5日（水）14：00～19：00

場 所：京都精華大学情報館

出席者：8館 10名

平成13年度 第4回

日 時：平成13年11月20日（火）13：00～15：00

場所1：近畿大学中央図書館

日 時：平成13年11月20日（火）15：30～17：30

場所2：司馬遼太郎記念館

出席者：3館 3名

2. 紀要編集委員会

平成13年度 第2回

日 時：平成13年6月8日（金）13：00～16：00

場 所：大阪電気通信大学図書館

出席者：2館 2名

議 題：紀要発行のスケジュールについて

平成13年度 第3回

日 時：平成13年 8月 3日（金） 11：00～17：00
場 所：大阪電気通信大学図書館
出席者：2館 2名
議 題：引継ぎ資料の確認および整理について

平成13年度 第4回

日 時：平成13年 8月29日（水） 11：00～17：00
場 所：大阪電気通信大学図書館
出席者：2館 2名
議 題：紀要印刷3社合同説明会（見積もりのため）
について

3. 平成13年度第2回研修会

1日目

日 時：平成13年 9月 6日（木）
場 所：京都精華大学黎明館1階101号室
出席者：28館 38名+23館 30名（他地区協議会加盟館・その他）
テーマ：「マンガと図書館」
講演1：「マンガの読み取り能力について」
講 師：牧野 圭一氏（京都精華大学教授）
講演2：「マンガにとっての図書館の役割」
講 師：竹宮 恵子氏（京都精華大学教授）
見学会：情報館、マンガ棟=自在館等
懇親会：18館 26名+11館 14名（他地区協議会加盟館・その他）



2日目

日 時：平成13年 9月 7日（金）
場 所：京都精華大学黎明館2階PCルーム
Windows室
出席者：27館 37名
テーマ：「図書館ホームページ作成講習会」
講 師：小松 泰信氏（京都精華大学情報館）

4. 平成13年度第3回研修会（予定）

日 時：平成13年12月14日（金）

見学1：近畿大学中央図書館・同貴重書室
講 演：「近畿大学中央図書館貴重書室増設の経緯について」
講 師：辰馬 一三氏（近畿大学中央図書館）
見学2：司馬遼太郎記念館
講 演：「司馬遼太郎記念館設立の経緯について」
講 師：上村 洋行氏（司馬遼太郎記念館 館長）

〈中国・四国地区〉

1. 平成13年度第1回役員校連絡会議

日 時：平成13年 6月15日（金） 15：00
場 所：広島文化短期大学
出席者：役員館3館 7名
議 題：(1)平成13年度全国理事会・総会報告
(2)平成13年度中国・四国地区協議会総会・研修会について
(3)平成13年度短期大学図書館全国研修会について
(4)平成14・15年度中国・四国地区協議会次期役員館について
(5)平成14年度短期大学図書館全国研修会責任幹事館について

2. 第16回（平成13年度）総会・研修会

日 時：平成13年 9月13日（木）～14日（金）
当番館：広島文化短期大学図書館
場 所：安田女子短期大学
参加者：20館（全27館）24名
総 会：平成13年 9月13日（木）午前
(1)会務報告
(2)協議事項
・平成14・15年度役員館
・平成14年度全国研修会幹事館
(3)承合事項
研修会：平成13年 9月13日（木）午後
平成13年 9月14日（金）
全国研修会共催
講 演：(1)「ITと図書館」
前園主計氏
（青山学院女子短期大学名誉教授）
(2)「図書館って何色？」
中島正明氏（安田女子大学教授）
(3)「インターネットでレファレンス」

村本俊雄氏（日外アソシエーツ㈱）

- 演習：(1)「まずはインターネットにアクセス」
 (2)「インターネット上の図書館を利用」
 (3)「実習また実習」

村本俊雄氏（日外アソシエーツ㈱）

中澤夏子氏（日外アソシエーツ㈱）

3. 今年度総会・研修会議事要録の発行

平成13年9月21日、加盟館配布

4. 私短図中・四国協ニュースの発行

平成13年11月15日、第19号、加盟館配布

《九州地区》

1. 平成13年度幹事会開催

期日：平成13年6月26日（火）

場所：九州大谷短期大学同窓会館

出席館：5館

議題：①夏期研修会について

②館員名簿の発行について

③その他

2. 平成13年度夏期研修会

期日：平成13年9月3日（月）9：30～16：00

場所：福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館

出席館：16館26名

テーマ：図書館利用指導

演習「プレゼンテーションソフトの活用
 —パワーポイントを使用して—」

講師 坂川 和彦 氏

（九州大谷短期大学図書館情報課長）

事例発表「図書館活性化の手段としての図書館
 利用教育」

発表者 川路 孝昭 氏

（鹿児島純心女子短期大学図書館課長）

意見交換 図書館オリエンテーションや利用指導
 についての意見交換

—加盟館の実態調査（アンケート）
 をもとに—

会報50号を記念して

菅原 春雄

編集担当から会報発行して50号になるというので、何か思い出を書いてほしいと依頼されました。

まず、会報50号発行おめでとうございます。

私は、発足当時、昭和52年より役員を命じられ、当時役員会「本部理事会」で役割分担で広報会報編集担当を命じられましたが、編集など担当した経験はまったくなく、幸い私の勤務していた図書館「文教大学女子短期大学図書館」に副館長が大学の広報誌「文教大学ジャーナル」も担当していたので、編集の一から教わりました。会報の構成は年2回発行で前半は総会特集、後半は全国研修会特集を中心に編集されていました。私は創刊号から直接、間接44号まで関わったようです。題字「私立短期大学図書館協議会会報」、割付等も副館長から提示していただきました。

最近ある会で吉岡さん「元相模女子大学図書館事務長」が会報の題字は初代会長もり・きよし先生が書いたのではないかと私に質問がありましたが、あれは文教大学女子短期大学図書館の副館長が書いたのですと答えると、びっくりしておりましたが、今、振り返って見ると初代会長に題字を書いてもらったらよかったと反省しております。最近題字が変わったようですが、私は気にしません。題字の変更にも異論がある方もいるようです。

編集ですが、通常定例の本部理事会で会報編集方針を提案し理事会で協議し活動開始します。レイアウト設定に従って原稿依頼は、原則として地区理事を通じて依頼しました。編集は全部原稿が揃ってレイアウトしますので、期日まで原稿が到着するか、空白の穴埋めなど大変でした。原稿が揃ってレイアウトして印刷屋へ原稿依頼、校正、再校と印刷屋さんとの連絡があり、できあがり、当初、自宅で全国加盟館の住所を手書きで封書を作成し発送したこともありました。

編集は2名ですが実質創刊号からは編集担当2名で勤務の終わった夕方、喫茶店での打ち合わせも何回かしました。最後に会報編集に関わったメンバーを紹介いたします。私と青木忠洋「文教大学女子短期大学」、網本正巳「調布学園短期大学」、川井依玖子「東京文化女子短期大学」、吉岡馨彦「相模女子大学」等でした。私と直接、間接協力くださりましてありがとうございました。この場をかりて感謝いたします。

（文教大学女子短期大学部現代文化学科）

お詫びと訂正

「短期大学図書館研修」第21号にミスプリントがありました。訂正をお願い致します。

訂正箇所 裏表紙の英語表示部分

誤 CONTENTS → 正 CONTENTS

鈴木英二先生を偲ぶ



私立短期大学図書館協議会会長

竹内紀吉

昭和60年から平成3年まで、本会の会長を努められた鈴木英二先生が逝去された。

鈴木先生の訃報に接したのは広島のホテルにおいてだった。

広島文教女子大学の司書講習の講師として、このホテルに三日滞在することになっていて、第一日目の講義を終えた夜に、妻からの電話が入ったのだった。受話器を持ったまま、その知らせに、私は絶句した。いずれはそういう時を迎えなければならないことは覚悟していたのだが、それは余りに早く、突然に届いた知らせだった。講義はあと二日を残している。通夜には勿論間に合わず、告別式にもこちらの日程を放り出すのでなければ出席はできない。万事休すの思いだった。私はホテルの床の中で、遠い地にあることを詫言ながら、先生のご冥福を祈った。その夜はいつまでも眠気は訪れず、折々の先生の姿が幾つも鮮やかに浮かんで来た。「そっと養生していれば、五年くらいは生きられるらしいよ」肺ガンの告知を受けたとの知らせを受けて、急いで病院にお見舞いにあがった時の先生の言葉が昨日のように思い出される。やはり早すぎるご逝去だった。

鈴木英二先生は、廿日出先生とともに、図書館人として遙か後輩の私を始終暖かく見守ってくださった人である。私が千葉県立図書館員だった時代は、先生は野田の興風会図書館長で直接の上司であられた訳ではない。だが、実に濃やかに遠くに働く若造の仕事までもよく見ていてくださった。後輩の私にとって鈴木先生は廿日出先生とともに、県内の図書館人のなかで数少ない全国規模の著名な、業績のある図書館人だった。そういう人か

ら、名前を覚えられているばかりか、し終えたわずかな仕事のことまで見届けていただいているのは、何よりの励みとなったし、誇りにも思えた。

浦安の図書館の仕事を一応果たしたとき、いずれは教える立場に立って、自分としては勉強の時間を確保できる生活に入りたいと相談に伺ったおり、先生はもろ手を挙げて、後任に推薦すると喜んで下さった。あの時の先生の対応が私には何よりも忘れ難い。私の後半の人生はあの先生の暖かな言葉で決定したのである。もとを正せば、私などは先生にとってほんの行きずりの人と扱われても、何の不思議もなかったのである。過去にもっと関わりの深かった先輩は幾人もいる。だがそうした人達を遙かに超えて、先生の眼差しは私に対して深かった。先生が私のうちに見とどけて下さったものは、先生自身が生涯いちずにそれに賭けた図書館への思い、それだったのであろう。私は先生が見とどけてくれたものを、自分の中でこれからも大切に育て上げなければならないと思っている。

廿日出先生を失い、いま鈴木先生を送らねばならない。人の歴史とは別離の歴史だとある人が語ったが、私は先生の冥福を祈りながらその言葉をいま反芻している。

*なお、紀要第22号でも鈴木顧問についての追悼文を掲載する予定です。

◀編集後記▶

今回は昨年9月に行われた全国研修会関係の記事を中心にまとめました。当日は、世界を揺るがせた米国多発テロの翌々日。世の中が騒然とする中で、会場となった安田女子短期大学のキャンパスに拡がる鮮やかな緑と高台からの素晴らしい眺望が心に焼き付いています。

昨年夏、長らく本協議会の会長を務められた鈴木英二顧問が逝去されました。会長による追悼文を同時掲載いたしました。また、本会報も創刊号（昭和52年）から回を重ねて、今号で50号。創刊から編集を担当された菅原春雄氏にも思い出をつづっていただきました。

インターネットをはじめとして、日々、進化し発展する情報社会の海の中で、図書館はどう針路をとるべきか。現在まで本協議会を支えてこられた多くの方々の方々の労苦を思いながら、新旧おりませ、さまざまに考えさせられる号となりました。

今後ともよろしくご協力の程、お願いいたします。

(我孫子)